

令和7年度  
上八万小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の定着
- ②思考力・判断力・表現力を伸ばすための言語活動の充実
- ③児童の主体的な学びを確かなものにするための、授業展開の工夫や指導の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上  
推進員委員

- 委員
- 特別援学級主任
  - 1 学年主任
  - 3 学年主任
  - 5 学年主任

- 教務主任
- 2 学年主任
  - 4 学年主任
  - 6 学年主任

校長

【各校の取組状況の把握について】

評価カードを用いた教員の自己評価や、管理職による授業参観など様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○年度末の児童アンケートでは、「学校で勉強していることがよくわかる」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が、92.4%だった。前年度の93%に引き続き高い水準で推移している。</p> <p>○前年度「四則計算の確認テストで正答率9割以上の児童」達成率は上学年が、79.2%、下学年が85.2%だった。上学年が80%、下学年が83%を目指すという目標をほぼ達成した。</p> <p>○年度末の児童アンケートでは、「進んで読書に取り組むことができている」の質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、78.7%で前年度の73.5%を上回り、目標の75%を上回った。</p> <p>●「漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童」は、達成率は上学年が88.3%、下学年が54.7%だった。上学年は目標の85%を達成したが、下学年が目標の80%を大きく下回った。</p>	<p>○四則計算の確認テストで、正答率9割以上の児童を上学年は80%以上、下学年は85%以上にする。</p> <p>○漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童を上学年は85%、下学年は80%以上にする。</p> <p>○進んで読書に取り組むことができる児童の割合を80%以上にする。</p>	<p>○朝学習の時間で、取り組む内容を曜日ごとに決め、見直しを持って、漢字や計算のドリル学習や小テストに取り組むことができるようにする。</p> <p>○学習する単元と関連する以前の単元を復習する等、系統性を意識して授業を組み立てる。</p> <p>○学習中の単元だけでなく、以前学習した単元や前年度の単元からの宿題も出し、定着を図る。</p> <p>○漢字を学習する際には、とめ・はね・はらいを意識し、丁寧に書くよう指導する。</p> <p>○月曜日の朝学習の時間を読書に設定し、「一人で一冊を15分間」を合い言葉に全校で読書に取り組む。</p> <p>○毎週1回図書室に行き、全員が図書室の本を借りる機会を作る。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○積極的に発表したり、自分の考えを理由づけて説明できる児童が増えている。</p> <p>●話を最後まで聞いたり、正しく聞き取ったりできない児童がいる。</p> <p>●場に応じた声の大きさを話したり、自分の考えを言語化することが苦手な児童がいる。</p> <p>●昨年度末の児童アンケートでは、「自分の考えを進んで発表することができる」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が77%で、前年度の71%に比べ増加しているが、まだ十分ではない。</p> <p>●主語や述語をとらえて、意味・意図を正しく読みとることができない児童がいる。</p>	<p>○友達の発表や教師の言葉を、最後まで落ち着いて、正しく聞き取ることができる。</p> <p>○相手に伝わるように理由や事例を挙げながら、場に応じた適切な言葉遣いで、進んで自分の考えを話すことができる。</p> <p>○学年に応じた読解力を身に付け、教科書の文や問題文の内容・意図を正しく読み取ることができる。</p>	<p>○聞き方名人・話し方名人の掲示や「発表ナビ」「声のものさし」等を活用し、聞き方・話し方を常時意識づける。</p> <p>○ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりする時間や機会を多く取る。</p> <p>○子どもの意見に教師が問い返しをすることで、課題を深く考えたり、発言したりできるようにする。</p> <p>○読書タイム等を通して読書習慣をつけ、語彙力を豊かにし、表現の幅を広げることができるようにする。</p> <p>○新聞等を活用し、大事なところに線を引かせ、要約する力や自分の考えをまとめる力を身に付けさせる。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○静かに落ち着いて話を聞き、学習規律を守ろうとする雰囲気がある。</p> <p>○与えられた課題を真面目に取り組むことができる。</p> <p>○昨年度末の児童アンケートでは、「家庭学習をきちんとしている」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が、91%だった。教師が出す宿題に真面目に取り組んでいる。</p> <p>●困難な課題や苦手な課題に対して、諦めず解決しようとする意欲が低い児童がいる。</p>	<p>○困難な課題に対して、粘り強く取り組むことができる。</p> <p>○学習活動に見直しをもち、めあてをつかみ、自分の考えをもって、話し合い活動などに参加し、主体的に学習することができる。</p> <p>○日々の課題学習を正確に丁寧にを行い、個々が工夫して自主学習に取り組むことができる。</p>	<p>○ICTを効果的に活用するとともに、めあてを提示し、「めあて」から「ふり返り」までの授業の流れを大切にしながら、分かりやすい授業を行う。</p> <p>○単元のはじめに、単元計画を提示し、単元で付けるべき力を児童に伝えることで、見直しをもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>○体験活動や出前授業を取り入れたり、ペア活動やグループ活動を効果的に活用したりして、興味関心を高め、自己肯定感を高め、主体的に学習できるようにする。</p> <p>○適切な自主学習ノートを紹介し、週末等に自主学習を促す。様々な機会を捉えて、「家庭学習の手引き」の活用を積極的に行う。</p> <p>○学習規律の定着と共に、共に認め合う学級作りを行う。</p>			

# 令和7年度 学力向上ロードマップ

